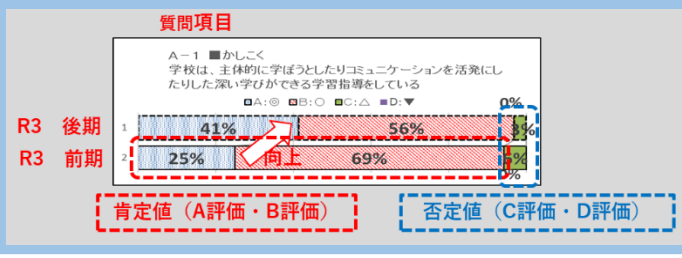
令和３年度　川合小学校【後期】　　2022.3

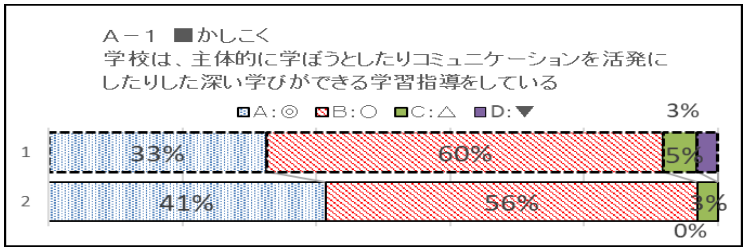
学校評価アンケート　結果の集計と今後の取組

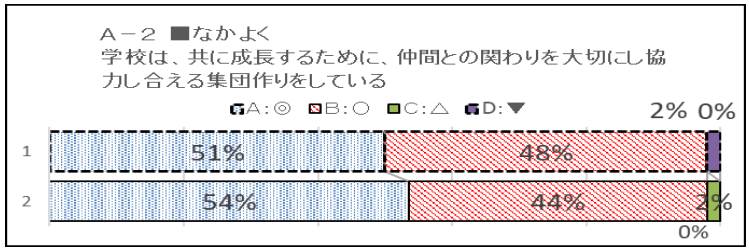
後期の学校評価について報告します。前期との比較，児童の心のアンケートの結果などを今回取り上げまいた。総合的みて、コロナ禍の中ですが、全体的に児童の学校生活における満足度や達成度は向上してきています。

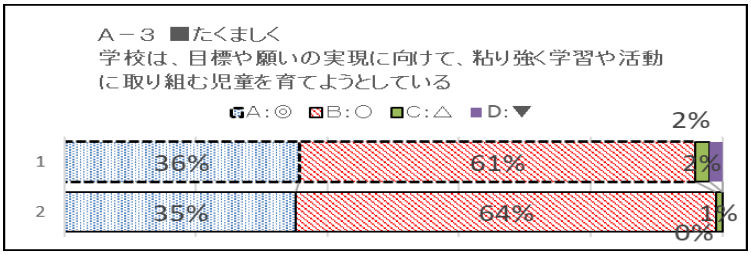
来年度に生かしていけるように、校内組織においても確実に実態をつかみ、重点化すべきところや改善点を明確にしていきます。



1．質問項目Ａ　学校の教育目標の実現に向けて【保護者アンケート】







1．質問項目Ａ　学校の教育目標の実現に向けて

【結果から】

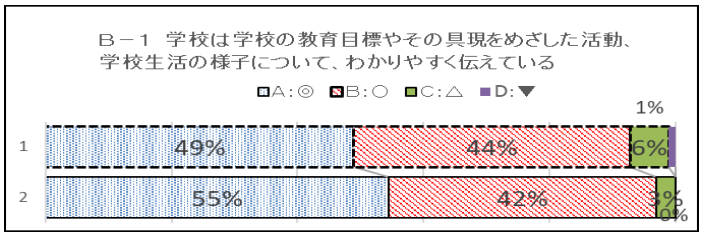
3つの観点共に高い肯定値を示す結果となりました。今年度より教育目標のリニューアルをしましたが、その具現のために、よりわかりやすく教育活動（可視化）が行われ、児童の成長を具体的に示していけるようにします。

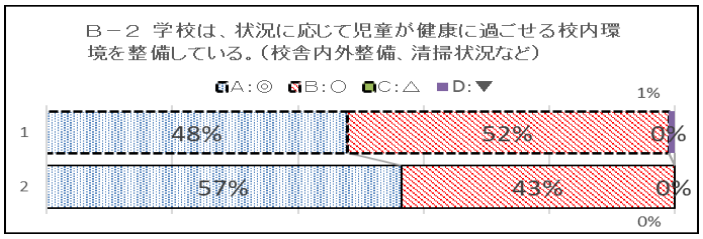
■『自ら進んで学ぶ子（かしこく）』
『自他を大切にする子（なかよく）』
『最後までやりぬく子（たくましく）』
を大きな目標として位置づけ、発達段階に応じて到達目標を段階的に設定し、着実にクリアしていけるように計画的に取り組んでいきます。

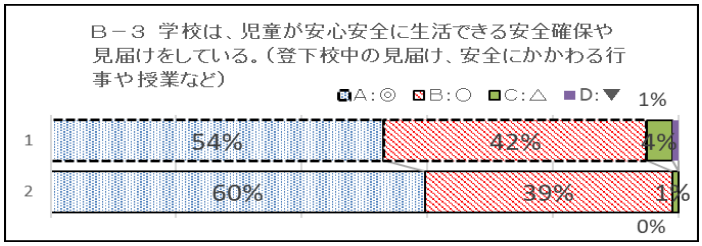
■Ａ－3については、「あきらめず粘り強く」がスローガンとなりますが、１年前の結果（R2）比較してもA評価の伸長が弱く（R2：27%）、今後も目標を確実に持たせ、やり切らせて価値づけるサイクルを定着させていく必要があります。

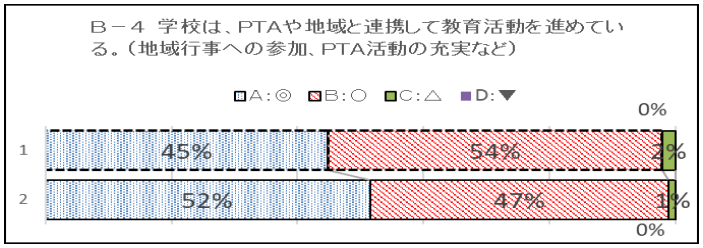
【目標】 肯定値の維持とA評価（割合）の伸長

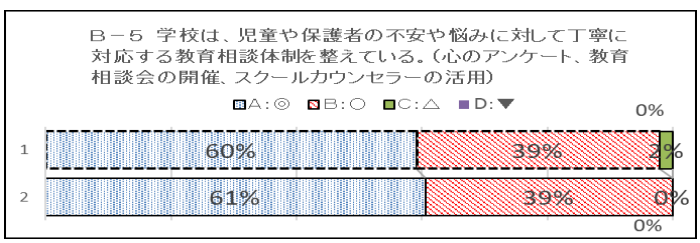
2．質問項目Ｂ　学校の教育内容，家庭との連携　【保護者アンケート】

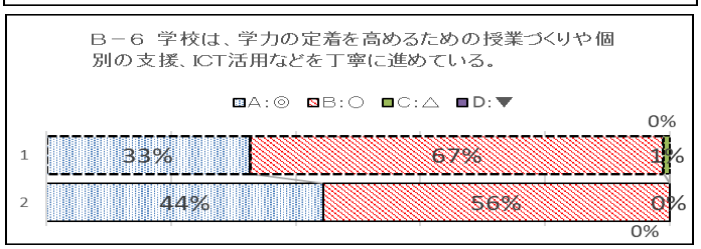


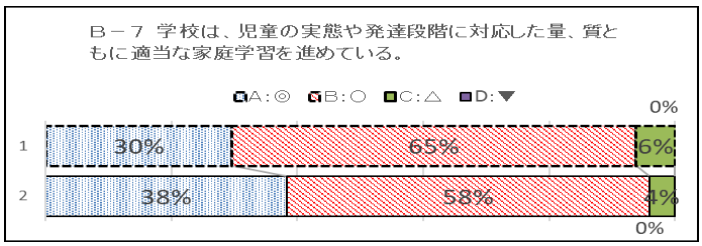


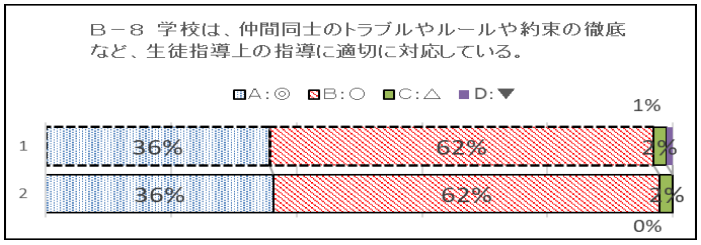












2．質問項目Ｂ　学校の教育内容，家庭との連携などについて

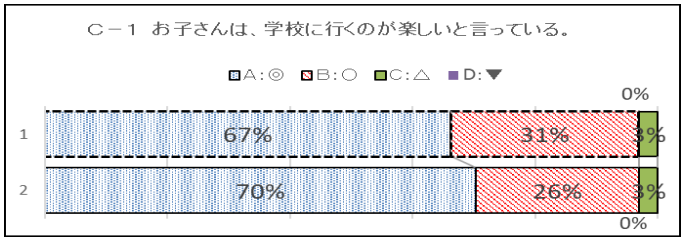
【結果から】

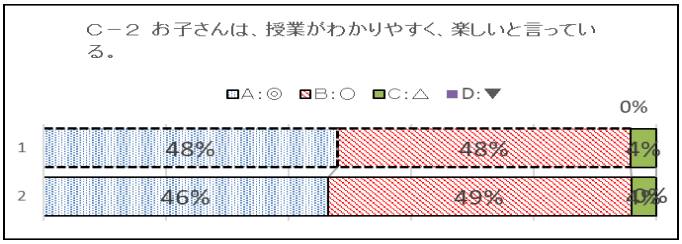
家庭学習については経年の課題となっており、１年前との比較からも結果として、成果を残すことはできていません。（A評価は５０%をめざしたい）その他の項目については、肯定値も高く教育活動への理解も高まりつつあると実感できます。

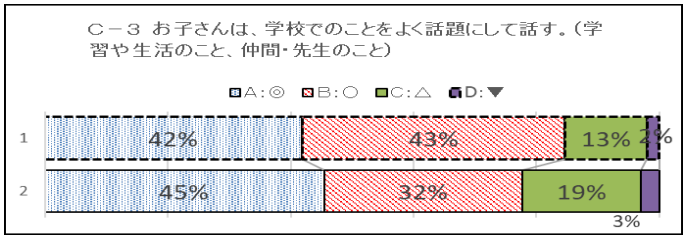
■担任の見届け方や方法を発達段階に応じて確立させ、個に応じた支援を実現していく家庭学習を作り出していきます。
■ICT活用によって授業の幅が大きく広がってきましたが、川合小としての学習スタイルのスタンダードを確立させていきます。
■「心のアンケート」は、児童の実態を把握し質問内容を状況に応じて変化させていきます。アンケート実施後の面談の仕方については、迅速かつ柔軟に対応し、必要に応じてケース会議を開き、保護者との面談も実施します。
■コロナ禍の中、保護者の方や地域の方に来校していただき教育活動を見ていただく場の設定が計画的には進められなかったため、来年度２年目となる学校運営協議会を軸とする連携体制を構築します。

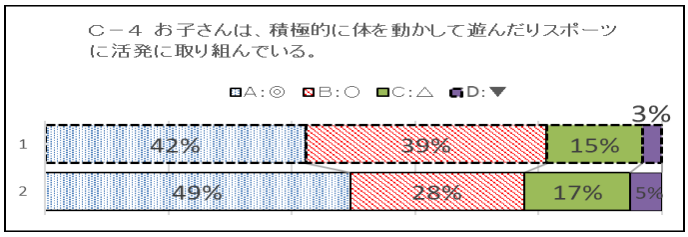
【目標】 授業改善、教科指導のスキルアップ　　学校運営協議会との連携協働　　授業と家庭学習のつながりと自主学習

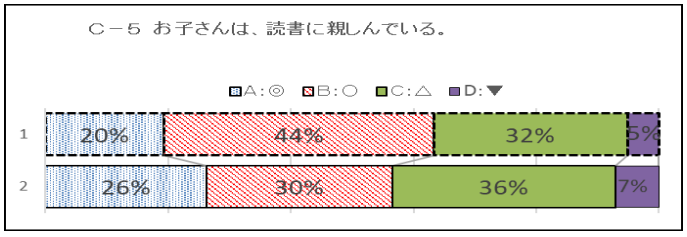
3．質問項目Ｃ　こどもの姿①について　【保護者アンケート】

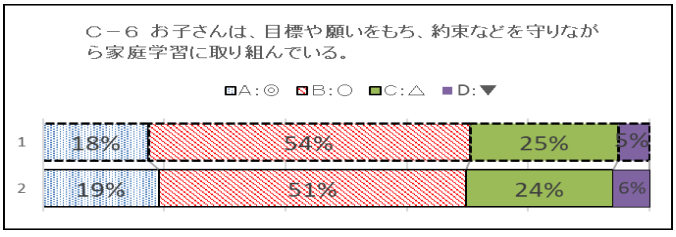












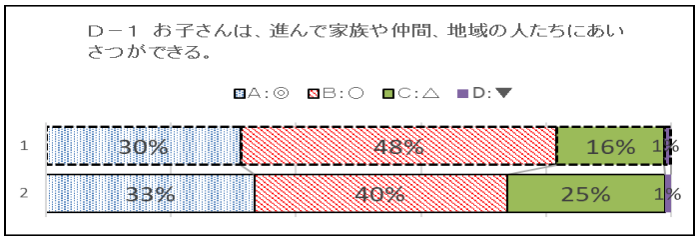
3．質問項目Ｃ　子どもの姿①について

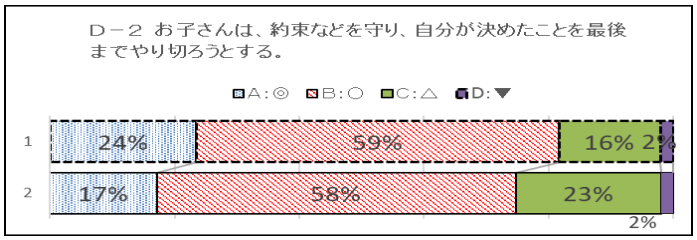
【結果から】

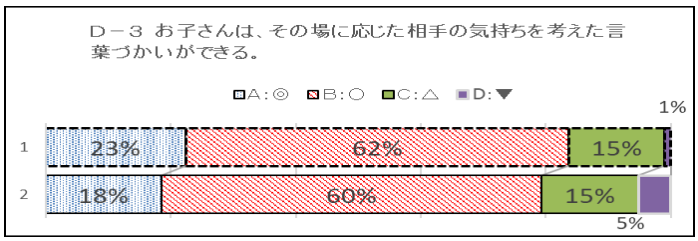
■「楽しい学校生活」を作り出すためには、毎時間の授業が柱であり、「わかる楽しい授業」となるよう、学習活動の工夫や学習形態（コロナ禍の中、対話的なコミュニケーションをとる活動を大きく制限してきたため）を改善していきます。
■教育相談体制は、来年度も重点を置き、児童一人一人が、困ったことや不安なことを抱え込まない安心安全な学校生活となるように、定期的に検証しながら取り組みます。
■「あいさつ」がこれまでも課題となってきましたが、保護者の方からもその弱さが課題であることも明確となっています。今後、規則正しい生活を具現するために、委員会活動や地域や家庭への啓発活動の進め方について協議を進めていきます。

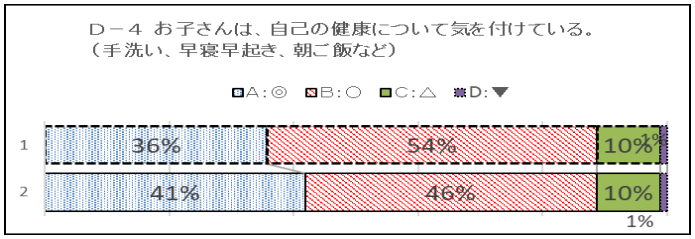
【目標】 生活規律の確立　　委員会・学級活動・縦割り活動の充実　　家庭学習　到達目標：肯定値・・・80%

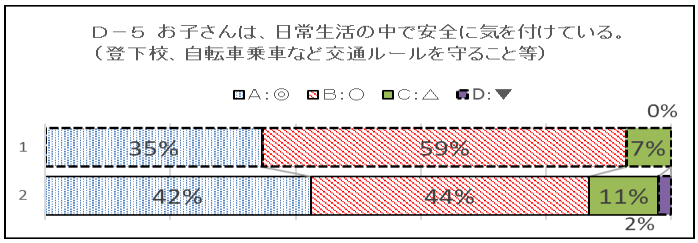
4．質問項目：D　こどもの姿②について　【保護者アンケート】











4．質問項目D　子どもの姿②について

【結果から】

○児童と保護者の意識のずれが大きく表れている項目でしたが、全体的に肯定値が向上してきています。

■縦割り活動などの異学年で交流する場において、高学年リーダーを中心とする活動の充実をすることで、自他を尊重する態度を育成します。

■「たくましく」をスローガンに、自己の目標を持ち、その目標に向けてあきらめず取り組む姿勢を認め評価していく見届けの方法を改善します。

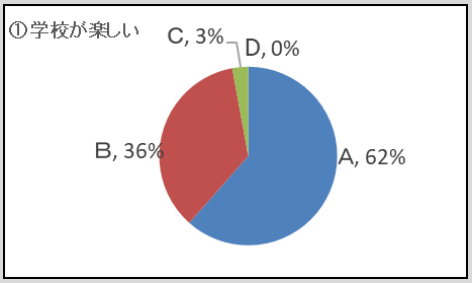
【具体的な取組】

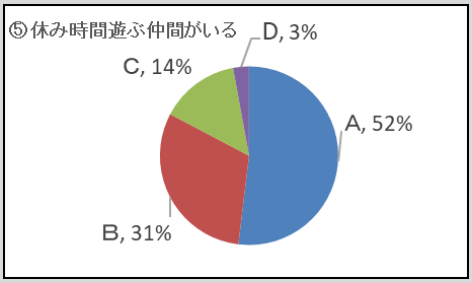
「最後までやりきる」・・・　肯定値：到達目標：90%

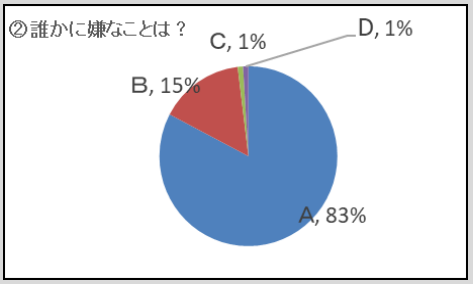
5．心のアンケート結果から　【児童アンケート】

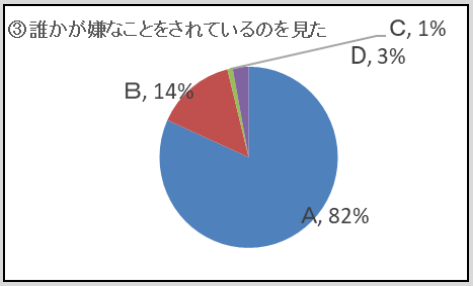
後期児童アンケートと心のアンケートの実施が同時期であったために、心のアンケートに統合して実施。領域ごとにグループ化をして結果の集計、比較、分析・考察を行った。さらに以前との比較をしながら成果と課題を明らかにする。

■グラフ　【肯定値】A：大変そう思う　B:そう思う　【否定値】C:あまりそうではない　D:そう思わない





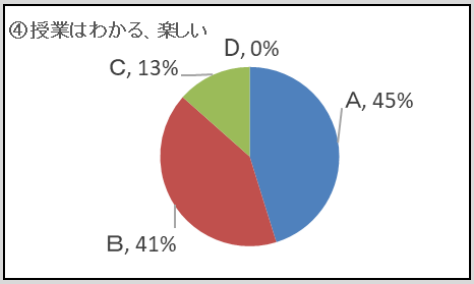




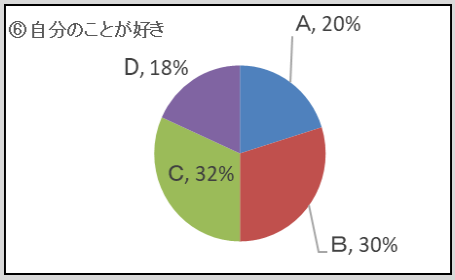
○前期の調査と同様「楽しい」と回答する児童が多く、長期欠席もなく健全な学校生活を築いていけるように心のアンケートなどを毎月大切に扱っていきます。また、授業だけでなく休み時間や登下校、縦割り活動などの様子にも留意します。

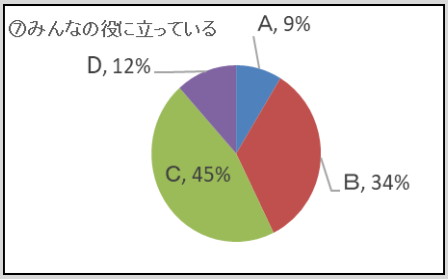
○いじめ防止基本方針に沿って日常生活から学校のチェック機能を高めます。教員、保護者、地域の方など大人同士の連携もさらに深め、コミュニティスクールの充実と共に、誰もが安心して生活できるように指導支援します。

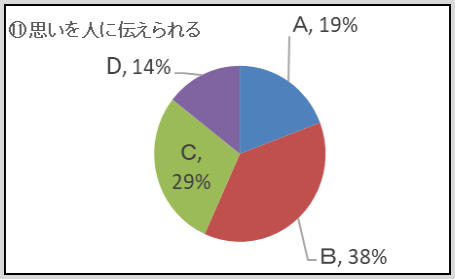
注　②③・・・A：ない　B：ほとんどない　C：時々ある　D：いつもある



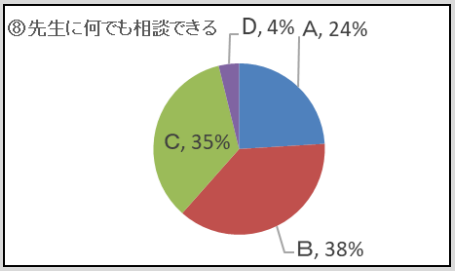
○「楽しい　わかる授業」については、前期の肯定値が98%に対して後期は、87%に下降しています。ICT 機器の活用によって興味関心を高め、意欲的に学習する姿勢は多く見られるようになりましたが、粘り強く解決しようとしたり根気強く反復学習をしたりする活動に苦手意識が強い児童がいるのも事実です。自分で選択したり解決方法を見出したりできる主体的な学びとなるよう、川合小学校としてのめざす姿を明らかにして、授業や家庭学習での見届けと個の状況に応じた支援を深化させます。

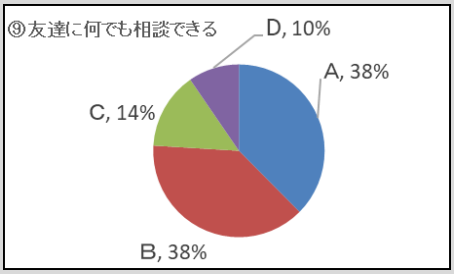


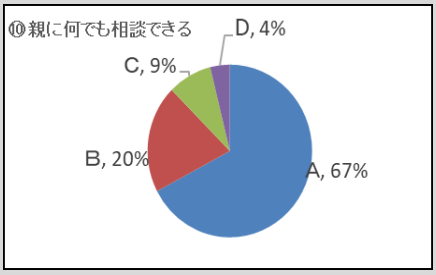




○6年生の全国学力学習状況調査において「自己肯定感」の弱さが見られたことをきっかけに、全校的に後期間重点化を図ってきました。全校の肯定値は、50%であり、なかなか自信をもって回答できないところもありますので、発達段階を考慮しながら、行事などの取組期間を重点化し、児童同士の相互評価や価値付けを確実に行っていきます。
○人権教育の充実と併せて、今後も仲間同士が相互に認め合い（なかよく）、互いのよさが自覚できる活動を計画的に進めます。その定着によって自己の長所を知り、的確な目標を設定の上（かしこく）に、根気強く（たくましく）取り組もうとする姿勢を作り出していけるように支援していきます。







○形骸化していたアンケート内容をリニューアルし、調査後の相談体制を充実させることを後期間の課題としてきましたが、その中で日常では気付かない根深い悩みを持つ児童への支援ができたケースもありました。時期的なこと、児童の生活や学習状況などを把握し、日々変化させながら児童に寄り添っていく体制づくりを来年度も大きな重点として取り組みます。
○「なんでも先生に相談できる」には程遠く、距離感を痛感しました。「ハートサポート」として担任以外の教員もいつでも相談できるという体制の問題点を整理し、職員全員の相互理解の上に児童への相談体制、個別の支援を充実させます。

■心のアンケート【児童】　１２月と２月の結果を比較してみました。

上記のアンケート結果は１２月実施ですが、２月にも同様の内容でアンケートを実施し変化を確認しました。
○①「学校が楽しい」は、引き続き多くの児童がそう感じていますが、学年によって「少しは楽しい」と否定値も増えている学年もあるため、心配な児童へのケアなど家庭と連携しながら進めています。
○②③「誰かに（誰かが）嫌なことをされる」は、両方とも肯定値が１００%と向上しています。月によって変動ができる限り少なくなるよう、学活の時間や朝の会や帰りの会で仲間への思いやりやお互いに解決していける力をつけていける指導や支援を充実させていきます。
○⑥「自分のことが好き」は、肯定値が向上してきていますが、質問に対してなかなか答えづらいという声も多いことから、質問内容をもう少しわかりやすくしていきます。⑦「自分は役立っている」も同様に、自己肯定感や自己有用感については、実際に自分でも高まりがとらえやすいように工夫改善します。
※今後も児童の実態に応じて、アンケートがマンネリ化しないように改善を繰り返していきます。ただ、年間を通じて重点化していきたい内容は、継続してその変化を確実に把握していきます。

学校評価については、学校運営協議会でも説明し、意見聴取をしながら来年度に反映させていきます。
学校のホームページにも掲載しております。下記 URL を参照してください。
【川合小学校ＨＰ】 http://www.gujo.ed.jp/kawaai/hyouka.pdf